

特別委員会活動報告

北上川治水対策特別委員会

委員会は12月1日に都市整備部土木課長のほか国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所水沢出張所の所長の説明を頂き、平成19年9月17日の前線豪雨に伴う国土交通省直轄河川災害復旧事業の進捗状況について、現地調査を行いました。

直轄河川災害復旧事業は奥州市域では二渡堤防、吹張堤防及び岩谷堂堤防の漏水と四丑橋下流左岸の護岸流失の4箇所が平成19年末に工事が発注されており、二渡堤防は10月末に完了しており、その他の3箇所についても資財確保等に不測の時間を要したものの本年度内に全ての工事が完了する予定とのことです。今後は前沢区赤生津地区の北上川堤防整備に関し早期着工が可能な農地防御堤小堤の対策案が提示されていますが、前沢白鳥館遺跡対岸も含め前沢区全体の北上川治水対策が必要とされております。

また衣川の流路変更については衣川沿いの接待館遺跡の保存と一

関遊水池事業衣川堤防の建設の一体性を保持しながら、建設促進が進められております。衣川の流路変更には平泉側（右岸）に約100メートル移動する内容であること、このことは平泉町、また町地権者の協力の結果であること、今年度は事業総延長の約75パーセントが掘削完了されます。以上のことから今後も治水対策については、引き続き各堤防等の調査、関係団体の要望事項の把握、治水対策への方針調査を行い関係者間の共通認識が必要とされます。

競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は12月議会開会中の12月11日に開催し、岩手競馬の現状と今後の見通し等について調査しました。

委員会には、市長、副市長及び担当職員のほか、県競馬組合から常勤副管理者等の出席を求め、平成20年度の競馬組合の運営状況、民間委託拡大に関する検討結果や来年度の運営見通しについて、質疑を中心とした調査を行いました。県競馬組合からは、今年度の経



水沢競馬場に設置された横手のかまくら

営改革の中心課題である民間委託拡大に関し、優先交渉提案に選定した日本ユニシス(株)との協議が白紙になった経過について説明がありました。そのため、来年度は現行方式による事業運営を継続するとの方針が明らかにされました。

また、収支計画の見直しにより、発売状況は12月8日現在、計画比100・5%とわずかながら上回っていますが、対前年比91・2%であることが報告されました。

委員からは、構成団体（岩手県・奥州市・盛岡市）の競馬組合に対する貸付金を放棄し、身軽にして経営改善をはかり、事業を継続させるべきではないかなどの意見が出されました。

いま、景気の大きな後退がみられ、それに呼応するように競馬の売上げも下降気味となっています。このように岩手競馬を取り巻く情勢は依然厳しいものがあり、運営

についてもまだまだ予断を許さない状況にあります。

このような状況の下、引き続き経営改善について調査、検討する必要があります。幹事会で検討した結果、今後競馬関係者との懇談を行うなど継続して調査することとなりました。

奥州市地域医療調査特別委員会

地域医療調査特別委員会は、12月定例会中の12月11日に開催し、井内健康福祉部長、担当職員等の出席を求め、11月に岩手県がとりまとめた「岩手県公立病院改革推進指針案」について、調査を行いました。

岩手県公立病院改革推進指針案は、県全体を見据えた公立病院改革の方向性を提示することにより、「公立病院改革プラン」の策定・推進を支援することを目的に策定されました。

改革推進指針案によれば、公立病院の課題として、医師不足による医療機能の低下や厳しい経営環境の下で今後とも採算等の面から、民間医療機関による提供が困難な医療を担っていくことが求められていると述べています。

また、市町村立病院等は、主に地域住民に身近な医療を提供して